

支援に関する比較研究研修

社会福祉法人 宝安寺社会事業部 ほうあんふじ（知的障碍児通園施設）
〒250-0201 神奈川県小田原市曾我大沢7

助成事業の概要

ほうあんふじの職員の質の向上をねらいとし、先駆的な取り組みをしている施設への一定期間の実習を行う派遣研修を通して、利用児童の最善の利益につなげていくことを目的として行なう。

6月～8月の2か月間に、一人5日間の研修を今年度新採用された8名を対象に行う。「個別対応の時間」の専門職の個別の時間の組み立て方、支援目標の設定の仕方、声掛け・課題の提示の仕方など細部にわたり学び、自己研鑽をして、研修後は職場内の子どもの支援に生かしていく。意欲的に目的を持って研修に望むこととする。

家族へのアプローチの仕方についても、個別支援計画の立て方や家族参加の個別の時間を、どのようにしているのか学びとしていきたい。保育士・作業療法士・心理職のそれぞれの専門職が、どのように連携をとっているのかも学びとする。

事業の成果

研修目的の達成は、ほうあんふじと研修先の施設うめだあけぼの学園との違いを感じながらも、ほうあんふじで研修者がどのように仕事に向き合っていくのかをじっくりと考える機会になったように思う。作業療法士として、ほうあんふじのような施設でクラス担任として仕事をしていく意味を理解できたことは、大きな成果だったと思う。どのような障碍児とも関わっていけるということを強みとして、作業療法士・心理士・保育士・児童指導員としての資質の向上を目指していくよう

にという目標が出来た。

専門職の専門性の高さが、子どもにとってとても意味のあることだと言うことを学びとしたことに成果を感じる一方で、それぞれ経験の浅い専門職の資質向上をどのように進めていくかが大きな課題となる。

研修を終えた職員からは、うめだあけぼの学園の取り組みの素晴らしさを実感する一方で、ほうあんふじの強みもみつけることが出来たようである。取り入れていきたい部分と、今のまま継続していくことが必要な部分とを感じる事が出来たようである。子どもを待たせない、動きを止めない保育を目の当たりにして、現在の支援を振り返る職員の感想もあった。

また、「地域支援」についても、色々な専門職が地域への巡回を行ない、自分の施設だけでなく地域の中核の施設としての役割を持っていることに驚きと今後の自分たちの役割であるということも自覚が出来たようである。

子ども達は、幼児期のこの施設だけでは完結しない。その後の学校への引き継ぎが大切になる。誰とでもコミュニケーションがとれるように写真カードやマカトンサインの使用を積極的に全員が取り組んでいることも印象的であったようである。

今後の展開

新採用職員が、自分がどういう専門性を持ち、どのように専門性を生かした仕事出来るのかを考えながら日々過ごしていくことが重要なことで

ある。仕事に向かうと言う第一段階の目標は達成されたと思うが、今後は、それぞれの専門性を、色々な専門職との関わりの中で、子どもに大切な支援とは何なのかを考えていくことが必要なこととなるであろう。施設内のケース会議を通して、それぞれの役割を確認するようにしていきたい。